

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「夢創造」の教育力と確かな進路実現力を持つリーディング工科高校

1. 創造力、表現力、活用能力とコミュニケーション能力を持った、社会に貢献できる「ものづくりリーダー」を育成する。
2. 活気ある学校生活を送る中で、自立心やたくましく生きる力を持つ生徒を育成する。
3. 生徒一人ひとりを大切にする教育活動と、規律ある安全・安心の学校づくりを推進するとともに、生徒が主体的に進路選択できるようキャリア教育を計画的に行い、進路実現を図る。
4. 地域の機関や企業等との連携を深め、地域に愛され、保護者や小中学校の信託に応えられる学校づくりに努める。

## 2 中期的目標 (H26-H28)

めざす学校像の実現に向け以下の取組を行う。

## 1 「確かな学力」の育成

- (1) 基礎・基本の学力の定着を図り、表現力や活用能力が身に付くよう、授業内容の充実を図る。さらに、職業資格（検定）の取得、課題研究の充実、部活動、学校行事、生徒自治会活動などを活性化し、課題解決能力などたくましく生きる力を養い「大阪の産業をリードできる人材の育成」を図る。
  - ア 公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用し、授業改善に取り組み「授業中、集中できている」を80%以上にする。
  - イ 家庭学習の習慣を各教科で検討し、学校教育自己診断で家庭学習時間1時間以上を60%以上にする。
  - ウ 部活動については生徒自治会と顧問を中心に活性化を図り、平成28年度には部活動加入率80%以上にする。
- (2) 専門性の深化と高等教育機関への接続に対応した教育内容が図れるよう編成作業を推進する。
  - ア 工学系大学進学専科クラスの授業内容をより充実し、3年後の進路実績を100%にする。
  - イ 全専門系において地域産業と大学との連携授業を取り入れる。
  - ウ 高度な資格や検定の取得の向上を図る。

## 2 規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ

- (1) 社会人基礎力を養うため、3年間を通じた系統的なキャリア教育・進路指導を計画的に推進し、就職・進学ともに、生徒の進路実現100%をめざす。
  - ア 1年生から職業教育の充実を図り、2年生でのインターシップ、3年生での企業実習等の充実拡大を図る。
  - イ 企業訪問等を活性化して、適切な就職指導を実施する。また、進学（大学、高専）合格100%、就職一次内定率を80%以上をめざす。
- (2) 全校的な人権尊重の教育を進めるとともに、授業を大切に、規律ある学校生活ができるよう教員全員で指導に当たる。また、「いじめ」「体罰」の無い学校づくりを推進する。
  - ア 首席を含め各学年団と分掌・教科の連携をより充実し、計画的に推進することで留年者・中退者を2%以下にする。
  - イ 生活指導部を中心に全教職員で生徒の「基本的な生活習慣の確立」にあたる。「いじめ」の発生を防ぎ、懲戒事案の減少をめざす。

## 3 学校運営体制の確立と教職員の教育力向上

- (1) 教職員が情報の共有化ができる環境づくりを推進するとともに、校内の全内規を再検証して、現在の学校運営に即した内容に再構築する。
- (2) 豊かな経験を持つ教員の教育技術を、教員に伝達できるよう、研修や研究授業を推進し、授業力・生徒指導力のある教員の育成に努める。
- (3) 指導教諭を中心に、各教科において計画的・実践的に研修計画を立て、OJTを推進する。

## 4 地域連携と安全で安心な学校づくり

- (1) 特別活動を中心に地域貢献を進め、地域産業との連携による企業実習・インターンシップなどキャリア教育・職業教育の充実を図る。専門高校としての特色ある教育内容を、広く府民に情報発信し、生徒が誇りをもって学ぶ環境づくりを進める。
- (2) 生徒の学習環境の改善に向けた学校施設・設備の整備を計画的に進める。具体には、学校周辺の環境改善、教室・クラブ部室・更衣室の整備及び学年職員室の整備等をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 25 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
○生徒用集計結果で肯定率の高いもの ①「高校生活は、人間形成に大切な時期である」 83.9% ②「学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」 80.3% ③「校内では、挨拶がかわされている」 79.6% ④「この学校には、他の学校にない特色がある」 76.9%	第1回(7/14) ○学校教育自己診断結果について・・・学校の特色として、遅刻等しない、挨拶、時間厳守など、しっかりと身につけるべき。 ○学校PRについて・・・進路などについて工科高校の良さをもっとPRすればよい。 ○工学系大学進学専科について・・・工学系の生徒にふさわしい職業感や将来の職業像等を教えて欲しい。大学で必要な数学や英語等の学力をつけてあげて欲しい。
○生徒用集計結果で肯定率の低いもの ①「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」 37.4% ②「将来の進路に不安はない」 38.5% ③「校内では、清掃がいきとどいている」 42.4% ④「部活動に積極的に取り組んでいる」 43.7%	第2回(12/22) ○工学系大学進学専科について・・・工学系の卒業生が出るまでに、まず来年度準備しておくべきことをきっちりやっておく必要がある。 ○生徒指導、進路指導について・・・今年の進路状況も進路保障ができている。また、学校も落ち着いている。今後は、学力をしっかりとつけることが課題である。 ○学校PRについて・・・工科高校について、中学生や中学校にはまだまだ浸透していないと思うので、学習内容や現状について、さらに中学校等へのPRに努めてほしい。
【方針と対策】 学校教育自己診断は、生徒・保護者・教職員の意識を把握・比較し、課題を明確し、PDCAサイクルで改善していくための重要なツールである。特に厳しい結果の項目について、課題を教職員全員が認識・共有することで、改善を図っている。 ①各教科、各分掌、各学年団等で分析・検討をし、全体会で改善に向けての具体策を提示する。 ②授業アンケートの結果より分析を行い、授業改善をより推進する。	第3回(3/4) 課題研究成果発表会 3年の授業「課題研究」において、生徒たちが興味関心に応じて課題を創造し、年間を通して研究を進め、卒業前に「課題研究成果発表会」を実施している。 ○座学や実習で学んだことを生かし、さらに新しい技術の習得に取り組んでいる。 ○企業や保育所と連携して行っている点が非常に良い。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「確かな学力」の育成	(1) 基礎・基本の学力の定着 ア 公開授業と授業アンケートを活用した授業改善 イ 家庭学習時間1時間以上 ウ 部活動の活性化  (2) 専門性の深化と大学への接続 ア 大学進学専科 イ 高大連携 ウ 高度な資格	(1) ア・授業評価、授業アンケート、学校教育自己診断の結果を踏まえた教科研修会を実施して授業改善を推進する。(年2回) ・公開授業(6月)と研究授業の拡充 イ・各教科で調べ学習と発表を推奨する。 ・全系合同課題研究成果発表会を実施する。 ウ・部活動や生徒自治会活動の充実を進め、高校生活を活気あるものにする。  (2) ア・進学ガイダンスを充実し、学力を伸ばす。 ・外部基礎力診断テストの全校実施 ・習熟度別学習の導入(数学、英語) イ・高大連携授業を取り入れる。 ウ・資格取得への組織的な取り組み ・ジュニアマイスター顕彰取得生徒の増加	(1) ア・成績不振者を-10% ・学校満足度65%以上 ・全教員が年2回以上の授業見学をおこなう。 イ・家庭学習時間1時間を20%以上にする。 ・全系合同の課題研究発表会を実施する。 ウ・部活動加入率60%以上  (2) ア・SPIテスト70以上 ・外部診断C3+以上 イ・全専門系が大学との連携事業を実施 ・土曜講座の開講 ウ・前年度の10%増加 ・ジュニアマイスター取得10名	(1)ア・途中退学生22%減(◎) ・原級留置生66%減(◎) ・学校満足度72.1%→69.7%。(○) ・教員相互の授業見学数が少ない。27年度より全教員対象の年4回授業見学週間を計画。(△) イ・家庭学習時間1時間以上は14.3%(△) ・3月4日(水)に1、2年生対象に体育館で3年生各系代表による課題研究発表会を大学、PTA、企業、中学校関係者を招いて実施する。(○) ウ・生徒会、部顧問、担任、各クラブが協力して部活動の活性化に取り組んだ。1年部活動加入率62%となった(全体50%)。(○) (2)ア・外部診断テストを全学年で導入・実施し、学力観測の指標とした(1年4月C2・9月C3、2年4月D1・9月D1)。3年6月SPIテスト平均56.3。(○) イ・2系で大学との連携授業を実施した。(○) ・土曜講座は来年度実施予定で計画。(○) ウ・ジュニアマイスター20名(ゴールド7、シルバー13)、機械系技能検定2級4名・3級20名、電気工事士1種合格9人・2種合格率81%等(◎)
2 規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ	(1) 社会人基礎力を養いキャリア教育の計画的推進 ア キャリア教育、インターンシップ、企業実習  イ 企業訪問・一次内定率  (2) 人権尊重 ア 人権教育 イ 基本的生活習慣	(1) ア・卒業生との連携による進路指導の充実。 ・社会人のマナーをより一層身につけるための指導を教育活動の中で実施する。 ・卒業生の離職調査や進学生の状況調査を実施し指導に活かす。 ・各学年団と進路指導部によるキャリア講演会、見学会を実施し、生徒の見聞を広げる。  イ・企業訪問と求人情報等を収集する。 ・学力の向上と面接など事前指導の強化  (2) ア・支援コーディネータや担当者を配置して課題のある生徒に適切な指導と支援を図る。 ・関係者による定期的な情報共有の場を設定し実施する。 ・教職員に人権研修を年2回実施する。 イ・基本的生活習慣をより一層定着させる。	(1) ア・卒業生を囲む座談会 ・マナー指導の実施 ・インターンシップ、企業実習への参加生徒数600名以上に ・就職・進学ともに進路決定率を100%にする ・キャリア講演会3回 イ・企業訪問100社以上 ・集団面接を実施して1次内定率を75%以上する。  (2) ア・支援委員会の設置 ・ケース会議の実施 ・いじめ、体罰0 イ・おはよう運動を強化し遅刻を-10%にする。 ・懲戒件数を-10%	(1)ア・昨年を上回る616件719人(求人倍率3.5倍)の求人を得た。就職指導についても計画的、戦略的に取り組んだ。(○) ・インターンシップ、企業連携実習への参加生徒延べ人数555名(○) ・現在100%の就職内定(205/205)(◎) ・進学者も現役合格100%を実現している。 ・3年前の就職者114名へのアンケート調査では、全体に離職率が低い結果(17.5%)となった。(◎) ・キャリア講演会4回実施(○) イ・企業訪問等100社以上実施(○) ・面接指導等計画的に取り組み、就職1次内定率82%で前年比16%増となった。(◎) (2)ア・高校生活支援カードの活用と保健室、相談室、スクールカウンセラーの連携により、生徒に適切な指導支援ができた。(◎) ・ネット上の事象について、適切な指導および集会等で注意喚起を行った。(○) イ・朝の校門指導(おはよう運動)を強化し、遅刻42%減少(◎) ・問題行動による懲戒件数42%減少(◎)
3 教職員の教育力向上	(1) 内規の見直し  (2) 授業力・教員力のある教員の育成  (3) 計画的OJTを実施して中堅教員の育成を図る。	(1) 実態に即した校内内規に再編成をし、学校運営の円滑化を図るために内規を見直す。  (2) 新任教員及び2年目、3年目教員での校内研修会を年5回実施する。  (3) 情報の共有化を図るためにICT機器の活用講習会を2回実施する。	(1) 校内内規の全面的な見直し案を10月までに作成し27年度より施行する。 ・各種委員会のスラップ&ビルドを一層推進する。  (2) 系統的・計画的な校内研修を実施し、冊子を作成する。  (3) ICT研修会2回	(1) 校内内規を全面的に見直し、順次施行。学校運営の円滑化を図っている。(◎) ・各種委員会を整理した。(○) (2) 経験年数の少ない教員の育成を目的に各教科等では研修を実施したが、冊子作成まで至らなかった。来年度は校内研修を充実させていきたい。(△) (3) ICT研修会1回実施。来年度はICT機器の活用講習会をさらに実施していきたい。(△)
4 安心な学校づくり	(1) 専門高校としての特色ある教育内容を、広く情報発信する。  (2) 学習環境の改善を計画的に進める	(1) 地域連携(地域貢献、出前授業、ものづくり教室等)や中学校連携(生徒・教員訪問や進路広報等)を推進する。 ア・中学校教員向け説明会を開催する。 イ・1年生の出身中学校への訪問を実施する。 ウ・教職員で中学校への訪問を実施する エ・中学校等への出前授業を実施する。 オ・本校独自の説明会を実施する。 カ・各種説明会に参加をする。 キ・ホームページの充実、各種媒体による広報活動等により本校の教育実践を広く発信する。  (2) 学校の施設や設備を計画的に改善する。	(1) 志願倍率1.2倍以上 ア・中学校教員向けに工科高校の特色を説明する会を年1回は開催する。 イ・1年生の出身中学校訪問70校以上 ウ・教職員の中学校訪問130校以上 エ・出前授業2校以上 オ・学校説明会5回 カ・中学PTA主催等年間20回以上に参加 キ・ホームページの更新数を+50回増やす。  (2) 全教室の改修	(1) 志願倍率 総合募集1.15倍、工学系0.98倍(△) ア・中学校教員向け説明会を年2回実施。(○) イ・1年生51名が夏休みを中心に出身中学校を訪問。(○) ウ・教職員で135校の中学校を訪問(○) エ・出前授業実施3校(○) オ・体験入学、学校見学会・説明会6回(○) カ・地域合同や今工単独で合計21回の説明会を実施または参加して、延べ814名の中学生に説明することができた。83名増(○) キ・ホームページの各学年通信を充実させ、更新回数は50回以上の大幅増加(◎) (2) 全教室の改修はできなかったが、施設や設備を可能な限り改善した。27年度より全学年職員室を設置し、生徒への指導をさらに充実させる。(○)